

5 合併への諸準備

新市への移行準備に向け、組織機構、人事また施設等の整備を図るため、新市設立準備室を八日市市の機構に設置し、協議会事務局職員に併任辞令を発令し、新市への移行事務にあたらせた。

合併準備

- ・新市発足までに準備しなければならない事項の内、1市4町全体に関わる重要な事項や横断的な事項などを実施。

(1)まちづくり協議会設置への取り組み

ア) 新市まちづくり計画では、合併後、各地区単位に住民参加によるまちづくりを進めるため、各地区ごとにまちづくり協議会の設置を行うこととしているが、これを早期に実現できるように、合併前から各市町において職員の研修会や住民参加による懇談会、研修会などの開催の指導、支援を実施。(研修会等への参画、指導者の派遣など)

イ) まちづくりのつどい開催

- ・平成16年12月11日 八日市商工会議所
- ・基調講演
- ・パネルディスカッション

(2)合併啓発事業の実施

ア) 合併啓発イベントの実施

平成16年10月18日の合併（廃置分合）の知事決定を受けて、東近江市誕生の啓発を図るとともに、合併前から新市の一体感の醸成を図るため、1市4町の秋のイベントに合併コーナーを設置し啓発を行った。

イ) 啓発ポスターの作成等

合併協定調印に合わせて、東近江市誕生を広くPRするため、ポスターやのぼり旗など啓発用物品の作成、配布を実施。

- ・ポスター 700枚作成
自治会、事業所、公共施設などに配布
- ・横断、懸垂幕 各市町庁舎、愛東配水池、五個荘中学校体育館などに設置
- ・のぼり旗 300枚作成 各市町に配布
- ・ウインドシート 公用車70台及び循環バス6台に貼付
- ・電光掲示板による啓発 八日市駅前等4箇所

(3)新市市章の決定

新市として早期に一体感を醸成するとともに、発足直後に卒業式や入学式なども控えていることなどから、新市市章を事前に決定することとし、その方法については、住民参加を基本にデザインの募集や候補作品のアンケートを実施した。また、協議会において決定された市章については、新市において活用するため封筒等のデザイン化を合わせて行った。

・市章デザインの募集 期 間：平成16年7月1日～8月13日
応募数：1,777点

・市章候補作品住民アンケート
期 間：平成16年10月5日～20日
回答数：5,055人

(4)新市ガイドブックの作成

新市への円滑な移行を図り、住民に困惑が生じないようにするため、合併後の市役所の姿、行政サービスの内容や窓口、合併による手続変更などの情報をまとめた冊子を作成し、合併前に住民や事業所などに配布を行った。

- ・配布時期：平成17年1月下旬
- ・配布先：各戸、事業所等
- ・作成部数：30,000部

(5)新市ホームページの作成

新市発足とともに東近江市を広く内外に情報提供するため、新市のホームページの作成を行った。

- ・東近江市のプロフィール、行政ガイド、暮らしのガイド、消防防災救急情報、観光案内、施設案内、キッズコーナー、外国語版等

(6)新市例規の策定

新市発足と同時に市長職務執行者が専決処分により定める条例や規則について、事務レベルでの調整内容をもとにその内容を審査し、新市の例規集の作成を行った。

(7)庁舎移動

新市発足時に円滑な行政運営や住民サービスの提供ができるよう、新市組織にあわせた人や物の移動をスムーズに行う必要があるため、配置レイアウトや移動計画を策定するとともに、計画に基づいた移動を行った。

- ・現況調査、レイアウト作成、移動マニュアル作成、移動監理など
- ・移動時期：第1次 平成16年12月28日～30日
第2次 平成17年2月4日～6日、10日～13日

(8)庁舎整備

新市の組織に合わせて、本庁（八日市市役所）には各支所（4町各役場）から100名を越す職員が集まる一方、支所においては4～5割の職員が本庁へ移動するため、新市の体制に合わせた庁舎整備を行った。

また、合併に合わせて新たなネットワーク整備や電算統合による新システムの導入などの整備も合わせて行った。

- ・ 工事実施：八日市市新市設立準備室
- ・ 東庁舎新築整備

場	所：八日市市役所東広場
工	期：平成16年7月末～12月末
	延べ床面積：1,237.30㎡
	建築面積：1,435.70㎡
- ・ 本庁舎電算室拡張工事

場所及び内容	：八日市市役所内電算室の拡張
工	期：平成16年6月下旬～9月末
- ・ 本庁舎電気設備工事

内	容：地下電気室キュービクル改造、電気配管工事
工	期：平成16年9月～平成17年3月
- ・ 本庁舎電算システムフロア配線工事

内	容：OAフロア設置（本庁舎1～2階）
工	期：平成16年9月～平成17年3月

(9)市旗作成

市章の決定に伴い、新市発足とともに本庁、支所、学校等各施設において広く市章を活用できるようにし、新市に対する住民意識の向上や一体感の醸成を図るため、市旗の制作を行った。

(10)電算の統合

新市における行政運営の円滑な執行を図るため、1市4町がそれぞれで活用している様々な電算システムについて統合を行い、新市のシステムの構築を図った。

- ・ 内容

基幹系システム	24システム
基幹系連携・単独システム	29システム

(11)イントラネット整備

新市における本庁、支所、各施設を光回線で結ぶネットワーク整備を行った。

(12)CATV事業の推進

情報化時代に対応した都市整備の一環として、また1市4町内における情報網の格差是正などを目的に、CATV事業の推進を図る。この事業推進により、行政情報の提供、地域内話題の共有、緊急放送などが可能となる。

平成16年度においては、整備計画及び実施設計を行った。（平成17年度のハード整備により、平成18年度秋の開局を目指す）

- ・ 電算統合に向けた基幹系、連携系、個別系電算システムの構築
- ・ 新市の市内電話整備に向けた検討
- ・ 新市まちづくり計画の主要事業のひとつであるCATV事業の推進方法や実施計画を検討

6

閉市・閉町式及び閉庁式

昭和の大合併から50年を超え、それぞれなれ親しんできた市町を長く記憶にとどめ、また新市でのさらなる各地域の飛翔をめざし、各市町において閉市・閉町式及び閉庁式典が挙行された。

八日市市閉市式

八日市市は昭和29年8月15日、1町5村が合併し、当時県内5番目の市として発足したが、今回の合併により、その半世紀にわたる歴史に幕を閉じることとなった。

合併を目前に控えた平成17年1月30日、県立八日市文化芸術会館において開催した閉市記念講演会では、まずオープニングを飾り、近代大正琴の女性5人演奏グループ「ティアラ」による大正琴の演奏でスタート。「八日市市民の歌」から始まり、最後の演奏曲「マイウェイ」まで5曲を演奏いただき、参加された約500人は、会場内に響きわたる大正琴の迫力あるサウンドに魅了された。

次に、中村市長、志井議会議長のあいさつに続き、講師として招いた立命館大学客員教授の福岡政行先生による「これからの日本と地方自治—平成合併と三位一体改革はどこへ—」の演題による講演を行った。地方自治体を取り巻く環境が、地方分権の推進、三位一体改革、市町村合併とめまぐるしく変貌する中、今後を展望し、どのようにまちづくりに取り組んでいけばいいのかなどについて有意義な話を聞くことができた。

永源寺町閉町式

東近江市発足に伴い、永源寺町が50年の歴史に幕を閉じるに当たり、平成16年6月の小椋佳コンサートから平成17年1月23日の町制50周年記念式典までの間、幾つかの記念イベントを行った。

まず、6月12日には永源寺中学校体育館において「小椋佳 歌談の会」が開催された。この催しは町民有志からなる「永源寺新しい旅立ち実行委員会」と「永源寺中学校を祝う会」が主催運営された。

次に10月の町民運動会では昭和32年に制定された町章を人文字で形どり、上空からラジコンヘリで撮影、各集落の自治会館や公共施設および希望者に配布をした。

また、11月13日～14日にかけて開催されたもみじまつりでは、展示会場に町制50年間の主な出来事をパネル展示。更に前夜祭と1日目の夜には町民グラウンドに町民およそ500人の協力を得て6500個のローソクを点火。「町民6500人の輝望」と題し、新市が輝きと希望に満ちた町となるように願いを込め、6500個のローソクの灯が醸し出す幻想的な世界を満喫した。

閉町目前となった1月23日には町制50周年記念式典を開催。

1月22日は前日祭として、「ふるさとに想いを寄せるメロディコンサート」を開催。町内在住のピアノ奏者と大津市在住のソプラノ歌手により四季のしらべに聴き入ったり合唱したりと、歌を通してふるさと永源寺への想いを深め、また、町内の小学校6年生児童による意見発表「ぼくたちの心にうつつた永源寺の過去、現在、未来」も子供らしい新鮮な感覚でまちづくりに対する夢が語られるなど、感動的なひと時であった。

1月23日には自治会長など町づくりに関わりの深い町民160人と来賓45人にご出席いただく中、町制50周年記念式典を開催。過去10年間における町づくりに功績の大きかった53人と4団体に対し町長から感謝状と記念品が贈られるなど、厳粛な雰囲気の中、永源寺町として最後の式典は昼前に幕を

閉じた。

午後は、小中学生による「わたし・ぼくのまち」と題する作文の発表会、C. W. ニコルさんと秋山豊寛さんの講演。引き続き町長がコーディネーターとなって「もし私たちが永源寺町に暮らすなら」と題し、自然豊かな永源寺町のまちづくりにアドバイスや提言をいただいた。

五個荘町閉町式

平成17年2月10日の午後3時から五個荘町福祉センター大ホールにおいて、地元自治会長、五個荘町議会議員をはじめとする町関係者や町職員など約100名の出席を得て五個荘町閉町式典を開催した。

昭和の大合併により、五個荘町は、昭和30年1月1日に、旭村、南五個荘村、北五個荘村、安土町大字清水鼻が合併し今日に至ったが、今回の合併で東近江市誕生とともに、五個荘町の歴史を閉じることになった。

五個荘町の閉町式典は、君が代の斉唱と五個荘町歌の斉唱に始まり、町長の挨拶、町議会議長の挨拶、その後、五個荘町旗の後納を行った。

先人から培われた豊かな自然環境、歴史文化は、近江商人発祥の地（てんびんの里五個荘町）として全国に知られるまでに至り、これまでの歴史を思い起こしながら別れを惜しんだ。

愛東町閉町式

イベント名：愛東町合併50周年記念 ありがとう あいとう祭

期間：平成16年11月13日～14日

内容：愛東町の50年の歩みを振り返り、平成16年11月13日から14日に「愛東町合併50周年記念 ありがとう あいとう祭」を「ありがとう あいとう そして未来へ」のテーマに多彩な催し物を行った。13日には、愛東町合併50周年記念式典と地域福祉フォーラム、e-radioはじめてのお出かけ「サ・タ・シ・ガ」公開生放送と花火大会を実施、翌日14日には、保育園・幼稚園・小中学校作品展や2004大秋穫祭in愛の^{まち}田園、楽しく学ぶ歴史シンポジウム、よさこいソーランなどを行い、大勢の住民が訪れた。

イベント名：愛の^{まち}田園づくりの灯り

期日：平成17年2月10日

内容：平成17年2月10日の合併前日に、「まち」を閉じるにあたり今まで灯し続けてきた「愛の^{まち}田園づくりの灯り」をこれからも永遠に灯し続けることの誓いとして、住民がペットボトルで手作りの「愛の^{まち}田園の灯り」（約600本）を持ち寄り、役場前の広場に並べ、菜種油による灯りを灯した。その周辺には、愛東町商工会青年部により作成された「ありがとう」「愛東」と浮かび上がったイルミネーションが輝きを放っていた。

他には、町が昭和55年ごろに制作した映画「ひらけゆく愛の^{まち}田園あいとう」の上映、「町から市になる」という意味を込めて名付けた「まち越しそば」（1杯100円）を提供し、町の移り変わりを回顧しながら、そばで冷えた体を温めた。

湖東町閉町式

東近江市発足に伴い、湖東町が50年の歴史に幕を閉じるため、平成17年1月28日の午後3時から湖東町閉町式典を行い、来賓、町関係者150名が出席して湖東町に別れを告げた。

助役が開式のことばを述べ、国歌斉唱と町民憲章の朗唱を出席者全員で行った。

町長の式辞では、「湖東町が昭和29年に発足して以来、これまでの町政の発展は、先輩諸賢の郷土愛の精神と町民の皆様のご協力があったからこそ成しえたものであり、新市においては、みんなで作る、うるおい、と、にぎわいのまちをスローガンに新たな東近江市として発展することを目指す」と述べられた。また、議会議長は「新たなまちづくりに、全力で取り組んでいきたい」と述べられ、その後湖東町が閉町することにより退任する助役・収入役・教育長からも挨拶が述べられた。

続いて、湖東町の経過報告として湖東町が昭和29年11月3日に誕生して以来50年間の移り変わりを、写真やKCN局の資料による約20分間のビデオで振り返った。

ビデオ鑑賞後、参加者全員で湖東町民の歌の斉唱を行い、式の最後にはホールのステージに掲げてある町旗が、町長と議長により静かに降ろされた。

八日市市閉庁式

平成17年2月10日の午後4時30分から市議会議員・各地区自治会長・行政委員・商工会議所・J A・合併協議会委員・各種団体長など100名が出席して、もと市役所1階ロビーにて閉庁式が執り行われた。

市民の歌の斉唱に続き、市長・市議会議長よりあいさつがあり市長は「本市のこれまでの50年の歴史を振り返ると、一抹の寂しさと万感胸にせまる思いであるが、一層大きなステージで新しいまちづくりが出来る胎動であると思っている」と述べられた。

その後、全員が前庭に出て、市議会議長・自治連合会会長・商工会議所会頭・合併協議会委員代表の手で静かに市旗が降ろされた。市旗は、あらかじめ準備された桐の箱にきちんと納められ、市長の手に渡された。これで、八日市市庁舎としての歴史に幕を下ろしたことになった。

永源寺町閉庁式

平成17年2月10日をもって永源寺町を閉じるにあたり、午後3時30分から本日をもって退任される行政委員の退任式が行われ、監査委員、選挙管理委員、固定資産評価審査委員、教育委員、公平委員の12人が出席された。

まず、初めに町長から一人ひとりに感謝状と記念品が贈られたあと、町長と議会議長から各行政委員の永年のご尽力に対しお礼とねぎらいの言葉を述べられ、これに対し行政委員を代表して市田教育委員が謝辞を述べられ退任式を終了した。

次いで午後5時30分から永源寺町役場の閉庁式を行い、まず初めに町制30周年にあたる昭和60年3月に制定された町民憲章を職員全員で唱和し、引き続き管理職4人の手により町旗が降納され、久田町長に手渡された。

五個荘町閉庁式

閉町式典に引き続き、平成17年2月10日の午後4時から五個荘町役場庁舎玄関において閉庁式が行われ、町長の挨拶のあと、町議会議長と町長、助役、教育長が「五個荘町役場」の名盤を木箱に納め、五個荘町役場の歴史を閉じられた。

愛東町閉庁式

平成17年2月10日の午後5時から、全職員及び全町議会議員、消防団幹部総勢134名の出席により、愛東町役場玄関前で、「閉庁式」と消防団「閉団式」を行った。

はじめに、助役より開式の辞を行い、続いて町長より閉庁にあたり挨拶があり、次に、議長より挨拶があった。

そして、町旗を降納後木箱に収納し、また合併関連書類及び例規集、まちのあゆみ等と更に「愛東町役場」と書かれた木製表札も併せて木箱に収納された。

引き続き、愛東町消防団の団旗の返納式が行われ、最後に収入役より閉式の辞が述べられ、厳粛な内に閉庁式が終了した。

湖東町閉庁式

平成17年2月11日に東近江市が発足し、湖東町が2月10日付けで終わるにあたり、午後5時から湖東町役場閉庁式を行った。

まず始めに職員全員で、昭和54年の町制25周年のときに制定された町民憲章を朗唱した。

閉庁にあたり、町長は「長年栄えてきた湖東町という名が本日をもって幕を閉じます。最後の湖東町長として、寂しさを覚え感無量です。新たな歴史を積み重ねる礎となりますことと、本日の別れが明日の出会いにつながるよう祈念します」と挨拶された。

引き続き毎日庁舎玄関に掲揚されてきた町旗が、今年度退職予定の2人によって降納され、町長に手渡された。



八日市市閉庁式



永源寺町閉庁式



五個荘町閉庁式



愛東町閉庁式



湖東町閉庁式

開庁式等

東近江市発足となった平成17年2月11日は冬最中ではあったものの、冬晴れの穏やかな日となり、新しい市の門出にふさわしい日となった。



テープカット

本庁開庁式及び支所開庁式

本庁をはじめ4支所において開庁式が来賓、報道機関、住民、職員等多数の列席者のもと挙行された。祝日であったため業務等に影響を及ぼすことはなかったが、職員への辞令交付、庁舎内レイアウト変更、電算システムの設定等が行われ、慌ただしく合併初日が経過した。

東近江市開庁式次第

日 時 平成17年2月11日 午前9時から
場 所 東近江市役所

開 式 の 辞

式 辞	東近江市長職務執行者	久 田 元一郎
祝 辞	前八日市市長	中 村 功 一 様
	東近江市議会議員（前八日市市議会議長）	志 井 弘 様
	滋賀県東近江地域振興局長	西 田 弘 様
銘 板 除 幕	前八日市市長	中 村 功 一 様
	前五個荘町長	前 田 清 子 様
	前愛東町長	植 田 茂太郎 様
	前湖東町長	宮 部 庄 七 様
	東近江市議会議員（前八日市市議会議長）	志 井 弘 様
	東近江市議会議員（前永源寺町議会議長）	高 橋 辰次郎 様
	東近江市議会議員（前五個荘町議会議長）	寺 村 茂 和 様
	東近江市議会議員（前愛東町議会議長）	鈴 村 重 史 様
	東近江市議会議員（前湖東町議会議長）	西 澤 英 治 様
	東近江市長職務執行者	久 田 元一郎
テープカット	前八日市市長	中 村 功 一 様
	前五個荘町長	前 田 清 子 様
	前愛東町長	植 田 茂太郎 様
	前湖東町長	宮 部 庄 七 様
	東近江市議会議員（前八日市市議会議長）	志 井 弘 様
	東近江市長職務執行者	久 田 元一郎

閉 式 の 辞

東近江市〇〇支所開庁式次第

日 時 平成17年2月11日 午前10時から
場 所 東近江市役所 〇〇支所

開 式 の 辞
式 辞 東 近 江 市 役 所 〇〇支所長
祝 辞 前〇〇町長
東近江市議会議員（前〇〇町議会議員）
銘 板 除 幕 前〇〇町長
東近江市議会議員（前〇〇町議会議員）
東 近 江 市 役 所 〇〇支所長
テ ー プ カ ッ ト 前〇〇町長
東近江市議会議員（前〇〇町議会議員）
東 近 江 市 役 所 〇〇支所長
閉 式 の 辞

東近江市開庁式式辞（東近江市長職務執行者 久田 元一郎）

本日は、寒い中、早朝から報道関係者、市議会議員、県関係者並びに自治会関係者の皆様に多数お集まりいただき、誠にありがとうございます。

八日市市、永源寺町、五個荘町、愛東町、湖東町は、県下で初となる市と町による対等合併を実現し、本日ここに「東近江市」を誕生させるに至りました。

平成15年6月27日に1市4町による合併協議会を設立して、15回に及ぶ合併協議を重ね、昨年5月20日に合併の調印、各市町の議会と県議会における合併議決手続きを経て、11月18日には、総務大臣により「東近江市」誕生の告示がなされました。

ここに夢と希望に満ちた「東近江市」の船出を79,000市民の皆様とともに喜ぶとともに、本日に至るまで、温かいご理解と格別のご協力を賜りました関係各位に感謝申し上げる次第です。

さて、地方分権が実行の段階を迎えている現在、地方公共団体は、限られた行財政資源のもとで行政改革に取り組み、効率的・効果的な行政体制を確立するとともに、業務の専門性を高め、ますます高度化・多様化する住民のニーズに適切に対処することが求められています。しかしながら、これらの住民のニーズに対応した取り組みを行う行政では、市民の皆さんにとって同じ生活圏域でありながら、行政区域という垣根があった訳であります。

このような中、1市4町が合併を必要と考え、そして互いに認め合い、譲り合いの精神でもって、大合併を見事に成就できましたことは、この地域の将来の発展とともに、住民に安心を与えるものとして極めて意義のあることであります。

新市「東近江市」の将来像は「みんなでつくる うるおい と にぎわいのまち 東近江市」であります。市民一人ひとりが生き活きとし、暮らし続けたいまちを創っていくために、「市民と行政の協働・パートナーシップ」を基本的な考えとしてまちづくりを進めてまいります。

東近江市民の皆さんは、この新たなまちづくりにご理解をいただき自主的に参加していただくことにより、行政とともに、それぞれの行動と創意工夫で地域のまちづくりに取り組んでいただきますことをお願い申し上げます。

また、東近江市の職員の皆さんには、今回の合併の目的や意義をもう一度認識していただき、さらに厳しさを増す社会経済情勢を市民感覚で受け止め、地域の一員としてまちづくりに関わることにより、市民のための自治体づくりになお一層の努力をお願い申し上げます。

最後に、豊かな自然環境を守り、地域固有の歴史や文化が輝き、79,000市民が主役となる「東近江市」の創造に向けて、一層のご支援ご協力を、心からお願い申し上げます。



久田職務執行者式辞

各種行政委員会

平成17年2月11日、市長職務執行者は臨時の教育委員を選任して教育委員会を招集し、各委員の互選により、教育委員長に足立進氏、教育長に中村文幸前八日市市教育長がそれぞれ選任された。

また同日、旧の1市4町の選挙管理委員会委員の代表が招集され、各委員の互選により東近江市の暫定的な選挙管理委員会が発足し、直ちに選挙管理委員会が開催され、委員長に津田茂氏を選任後、東近江市長選挙の日程を協議し、告示日を2月20日、選挙期日（投票日）を2月27日と決定した。